第１回大河原地域における高校のあり方検討会議　会議録

日　時　　平成２８年３月１７日（木）午後１時３０分から午後３時３０分まで
場　所　　宮城県大河原合同庁舎　２階　２０１会議室
出席者　　別紙出席者名簿のとおり

１　開会

【教育企画室　小谷野総括（司会）】
ただ今から「第１回大河原地域における高校のあり方検討会議」を開催いたします。
はじめに，宮城県教育委員会教育長　髙橋仁（たかはし　ひとし）より御挨拶を申し上げます。

２　挨拶

【髙橋教育長】
本日は，年度末の大変お忙しいところ「第１回大河原地域における高校のあり方検討会議」に御出席いただき，厚くお礼申し上げます。
また，本日お集まりの皆様には，日頃から本県教育行政に対し御理解と御協力を賜りますとともに，南部地区の教育の振興・発展につきまして多大なる御尽力を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。
さて，両校の同窓会をはじめ，大河原地域の皆様の御理解をいただきまして，去る１月１２日に知事定例記者会見におきまして，南部地区の今後の生徒減少と産業構造を踏まえた特色ある高校教育を展開するため，大河原町内にある柴田農林高校と大河原商業高校を再編し，新たな「職業教育拠点校」を設置することとしました。
新しい学校においては，両校が担ってきた農業教育と商業教育を継承しながら，さらにこの地域と時代のニーズを踏まえた「新たな学科」を設置しまして，地域産業を担う人材を育成したいと考えているところであります。
皆様御承知のとおり，柴田農林高校，大河原商業高校は共にこれまで南部地区において多くの優れた人材を輩出してきた伝統と実績のある学校であります。
今回，両校が新たな職業教育の拠点校として再編されることとなりますが，少子化により，今後一層の高校の小規模化あるいは統廃合が避けられない状況において，今後も地域においてなくてはならない学校として５０年先，そして１００年先も輝き続けるために必

要な再編であるということを御理解いただきたいと思います。

今回，開催する「地域における高校のあり方検討会議」は，県教育委員会として県内で初めて開催するものであります。

新たに設置する学校が，地域の皆様とともに歩み，愛され続けるものとなるため，地域の将来を担う次世代の育成について地域の皆様と一緒に検討し，創りあげていきたいと考え設置したものであります。

皆様には，新たに設置する学校・学科に対する御意見はもとより，学校と地域が協働して子どもたちの成長を支えていくという観点から，これからの学校と地域の連携のあり方などについて，幅広く様々な御意見をいただければと考えております。

結びに，本日は，限られた時間ではありますが，忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げて開会の挨拶とさせていただきます。これからよろしくお願いいたします。

３　出席者紹介

【教育企画室　小谷野総括（司会）】

続きまして，本日の出席者を御紹介いたします。

お手元の「第１回大河原地域における高校のあり方検討会議出席者名簿」をご覧ください。名簿の上から順に御紹介いたします。

（出席者一覧に基づき紹介）

※大河原町商工会長及び大河原教育事務所長は本日欠席のため代理出席

４　内容

（１）説明

【教育企画室　小谷野総括（司会）】

それでは，会議に入りたいと思います。検討会議の開催要綱において，本会議の座長を教育次長としておりますので，今後の進行につきましては鈴木教育次長にお願いいたします。

【鈴木次長（座長）】

教育次長の鈴木でございます。しばらくの間，座長を務めさせていただきますので，御協力よろしくお願いいたします。

それでは議事を進めます。（１）説明についてです。はじめに，今回の再編の背景や南部地区における高校教育の現状等について，資料１から資料３に基づき事務局から説明をお願いします。

【教育企画室　伊藤室長（事務局）】

教育企画室の伊藤と申します。

資料１から資料３により，今回の高校再編の背景や南部地区全体の状況などにつきまして，御説明させていただきます。

はじめに，この検討会議の目的などについて，資料１により御説明いたします。

この会議の目的は，今後の南部地区，大河原教育事務所管内２市７町の範囲になりますが，このエリアにおける生徒数の減少を踏まえ，柴田農林高校と大河原商業高校を再編するに当たり，地域のニーズを踏まえた魅力ある高校づくりを推進するため，宮城県として初めて，大河原地域における高校のあり方検討会議を開催するものです。

また，南部地区の現状，課題については，農業・工業・観光業といった多様な産業が展開されている一方で，人口減少などにより地域産業の担い手不足が懸念されていること，またニーズとしては，今後ますます６次産業化やブランド化に対応した人材が求められていることが挙げられます。こうした状況のもとで，今後５０年後，１００年後においても地域産業を支えていく職業教育拠点校を新たに設置することとし，これまでの農業，商業に，新しい学科も加え，より広い敷地を有する柴田農林高校の場所を活用し，最も早い場合で，平成３４年４月の開校を目指すこととしたものであります。学校の構想段階から，地域の皆様との緊密な連携のもとで学校を立ち上げ，運営していき，地域とともに歩み，地域に支えられ，地域を創る学校を目指したいと考えております。

資料１の裏面をご覧ください。

会議の開催概要については，記載のとおりであり，今後９月頃にかけて複数回の会議を重ね，年度末には，会議の議論を踏まえ県教育委員会として最終的に決定したいと考えております。

なお，今回の検討会議は，全日制の本校についての議論をお願いするものであり，この４月から新たに岩沼高等学園川崎キャンパスが校舎内に併設され，共生社会を目指す取り組みが始まる柴田農林高校川崎校については，距離的にも離れており，新しく設置される職業教育拠点校の分校として引き続き存続いたします。また，大河原商業高校定時制につきましては，県全体として定時制の今後のあり方を検討する必要がありますことから，この会議とは別に今後検討を進めることといたしております。

次に，資料２をご覧ください。

県全体の再編計画について御説明いたします。

県教育委員会では，これまで，時代のニーズや少子化に対応した高校の再編や改革を進

めており，現在は平成２２年３月に策定した新県立高校将来構想に基づき進めているところです。

再編に当たっての基本的な考え方は，１ページ目から３ページ目にかけて５つの観点をお示ししております。

１つは，地域との関わりであり，地域における高校の役割や期待を十分踏まえること，２つは，機会均等への配慮であり，交通の利便性や通学可能エリアに配慮すること，３つは，学校としての活力の維持や教育機能が十分に発揮できる規模であること，裏面に行きまして，４つ目として市立，私立高校との協調，５つ目として小規模校への対応として，原則として統廃合による再編を進める基準を明らかにしております。

これまでの再編整備の状況については，記載のとおりとなっております。次に，３ページ目をご覧ください。

「４　各地区の中学校等卒業者数の見通し」でありますが，今後の児童・生徒数の推計を示しています。地区ごとに１５年後まで年齢別に推計しており，県全体の推移を折れ線グラフで表示しています。

全体として右肩下がりとなっており，平成２７年の 21,752 人から平成４２年には 19,002 人へ，2,750 人，12.6%の減が見込まれております。

続きまして，南部地区の状況について資料３により，御説明いたします。

はじめに，南部地区における生徒数の推移及び必要学級数について御説明いたします。表の一番上の行，「中学校卒業者数」については，資料２で御説明した数字と同じもので，南部地区において見込まれる中学校卒業者数の見込みであります。下の方にグラフで示しておりますが，平成２７年の 1,593 人から平成４２年の 1,114 人まで，約 480 人，30.1%の減少が見込まれております。

※印の二つ目にも記載しておりますが，この数字に対し，定時制や私立学校への進学分を引き，さらには他地区との出入り，いわゆる社会増減も加味した南部地区の県立高校に進学する生徒数を算出し，それを４０で割ったものが，「必要学級数」であり，表の（A）の行に記載しております。平成２７年３月卒について見ると，南部地区全体で３８学級が必要となります。これが平成４２年３月卒の時点では２６学級まで減ることが見込まれております。

これに対し，現在の学級数が表の下から２行目，「地区学級数（B）」というもので，A－Bが，必要学級数との差で，今後再編や学級数による対応が必要な学級数ということになります。

２ページをご覧ください。

ここからは南部地区の高校教育の状況について御説明いたします。２ページでは，南部地区の全日制高校の学科や定員，充足率や入試における倍率などを整理しております。普通科，工業，農業，商業，看護，体育など多様な学科が展開されております。

３ページでは，これらの学校の配置状況を地図に表したものであり，最寄駅からの時間も表にまとめております。

４ページでは，生徒の通学状況や進路状況を比較しております。

５ページからは，各高校の特色，教育内容などについてまとめております。地域の進学重点校として，白石高校と角田高校の普通科が指定されているほか，白石高校看護科は，県内で唯一，専攻課程２年とあわせ５年間の学びにより看護師国家試験受験資格を得ることができる学校であります。また，蔵王高校，村田高校，伊具高校では福祉の学びが可能であり，介護職員初任者研修の資格を取得することができます。また，村田高校，伊具高校は総合学科であり，福祉のほか，商業，工業，農業など幅広い進路に対応しております。

最後に，８ページになりますが，南部地区におけるこれまでの再編・学級減の実施状況であります。平成１３年度当時，全体で１２校，５８学級あったものが，少子化の影響を受け，学級減や再編統合により，平成２８年度には１０校，３９学級まで減少し，先ほど説明したとおり今後１５年間でさらに１３学級の減が見込まれております。すべての学校において，学級減を行ってきた結果，全体として小規模化が進んでおり，生徒にとって魅力ある教育環境をつくるという観点から，再編統合の検討が必要になってきている状況であります。

今回の再編の背景や南部地区の状況につきましては以上であります。

【鈴木次長（座長）】

３つの資料に基づいて説明がありましたが，平成４２年度までに南部の中学校の卒業生が 400 人以上減ること，それから学級数にして１３学級減るという現状があると説明がありました。ただ今の説明について，何か御意見，御質問があればお願いします。

【大河原中学校　菊池均校長】

大河原中学校の菊池と申します。一点質問というか，要望というか，今，御説明いただいた資料１の２ページ目の今後のスケジュールのところですが，今後５回の会議がもたれ，中間案が提示され，会議開催まとめがあり，平成２８年度末に決定・公表というのがスケジュールのようですが，特にこの再編については，本日ここに参加の各会の代表の方々をはじめ，地域の中でも非常に関心の高いことと認識しております。地域とともに歩み，そして支え合うという方針をお聞きしたのですが，例えば第４回の会議で中間案がまとまった段階あたりで，パブリックコメントのような形で，ホームページ等で御意見を集約するという機会ということはお考えなのでしょうか。

【鈴木次長（座長）】

事務局いかがでしょうか。

【教育企画室　伊藤室長（事務局）】

パブリックコメントにつきましては，今のところそこまでは考えていなかったのですが，この会の全体を公開で行うことによって，皆様に情報提供していきたいと思っております。その中間案がまとまった時点で，その案に対して御意見を幅広くいただくということも１つの公開の原則といいますか，そちらに適うものと思いますので，検討させていただきたいと思います。

【鈴木次長（座長）】

よろしいでしょうか。他に御意見御質問等ございますでしょうか。

それでは続いて，「柴田農林高校と大河原商業高校の現状」について，それぞれ教頭先生の方から御説明をお願いします。

はじめに，資料４－１に基づいて柴田農林高校から御説明申し上げます。

【柴田農林高校　岩城教頭（事務局）】

柴田農林高校教頭の岩城と申します。よろしくお願いします。

本校は御存知のとおり農業高校ということで，義務教育を経て実践的な職業教育を目指す学校でございます。本日，本校関係者でおいでいただいております，同窓会長の菅野信様は以前本校の卒業生かつ校長でございますし，現在ＰＴＡ会長をしておられます大野幸雄様も本校の卒業生でございます。

本校の目標としましては，ふるさと定住後継者，要するに地域に密着，地域に根ざした，簡単に言いますと区長さんなど，将来大人になったときに地域をまとめ，地域を代表するような大人になってもらえばということで職業教育を通しながら取り組んでいるところです。また，現状ということで本校の教育目標ですが，基礎学力の向上，定着，進路達成ということが一番でございまして，その実現に向けて，学校設定科目であります「ベーシック算術」「ベーシック読書術」という教科を設けております。さらに，今年度は当たり前のことが当たり前にできるように，挨拶であるとか，毎日正門前に立ちまして挨拶を交わす，服装・頭髪，時間そのようなことができるように，また先程から申し上げているように地域に根ざした，地域に愛される学校ということで進めておりました。

入試の方ですが，昨日後期選抜の合格発表がありました。平成２４年度まで一般入試では定員割れしておりましたが，平成２５年度からこれまでの間，お陰様で１倍を超える生徒が集まっておりまして，何とか定員を充足している状況でございます。

本校の特徴的な学習ですが，先ほど説明しました基礎・基本的なものも含めまして職業教育における資格取得，その他にフォークリフトや小型クレーン，玉掛けなど，現場に出てすぐに使えるものもございます。また，地域連携を非常に強く力を入れており，明日，白石川のてんぐ巣病枝剪除作業，環境整備を行いますし，地域の金ヶ瀬小学校や町内の幼稚園，保育所，ママ友サークルの方々が，本校の農場施設を利用して，サツマイモ堀やり

んご狩りを行っています。また今年度，少し離れますが，蔵王町立平沢小学校の演習林を一緒に管理してはどうかという話があり，本校の生徒とともにやりましょうということで取り組んでおります。また，東日本大震災の被災地沿岸部の黒松を１００年規模の防災ということで植樹を実施するなど，地域連携そしてボランティアということで取り組んでおります。

部活動，生徒会活動ですが，ご存知のとおりウェイトリフティングが非常に強く，昨年，今年度と県では優勝しておりますし，ボクシングも今年度初優勝ということでした。また，剣道部ですけれども，昨年度は銃剣道で国体８位，今年度は短剣道で全国準優勝でした。部活も頑張っております。また，文化部も写真部，美術部，特に写真部ですが，全国高校生写真甲子園に何度も出場しておりますし，一昨年度，昨年度と宮城県デスティネーションキャンペーンでは白石川堤防で桜の咲く時期に写真を撮って，訪れた方々に渡しております。

専門教育においては，大河原農業改良普及センターとの連携や黒松のバイオ技術などの授業も展開しております。

最後に進路達成状況は１００％です。以前はなかなか進路が決まらないという状況もございましたが，一昨年度，昨年度，今年度も１００％と進路の達成に力を入れておりますし，特に関連する部分にも２割，３割が決まっております。

以上で柴田農林高校の現状についての説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。会議が始まる前に伊勢町長さんの方から白石川の土手の桜の開花が，４月３日より前になるのではというお話がございましたが，そのてんぐ巣病の枝の剪定作業を行っている話もございました。何か今の御説明に対しまして，御質問，御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。では，続きまして大河原商業高校の現状について，御説明をお願いします。

【大河原商業高校　西村教頭（事務局）】

大河原商業高校の西村と申します。よろしくお願いします。

大河原商業高校の現状について御説明いたします。まず資料の１ページです。

本校は，全日制課程商業科及び定時制課程普通科を設置し，９０年を超える歴史を有する仙南で唯一の商業の専門高校です。

全日制課程は，大正１１年に大河原町立実科高等女学校として設立され，その後幾多の変遷を経て，昭和２８年４月に宮城県大河原高等学校，昭和４８年４月に現在の校名に改称し，さらに平成１２年度より，現在の「流通マネジメント科」「情報システム科」「ＯＡ会計科」に学科を改編しております。

また，東日本大震災の発生した平成２３年に創立９０周年記念式典を挙行しております。現在，平成３３年度に予定している創立１００周年に向けて準備を始める時期を迎えております。

続いて，資料２ページです。平成２７年度は，重点目標に「学習指導，生徒指導，進路指導，防災教育，健康・安全指導」の充実，それから部活動の活性化，情報モラルの推進これらを通して，本校がブランドとして掲げている「大商ブランド」の再構築と，その強化に向けて取り組んでおります。

これまで本校では，ビジネス教育を通して「ビジネス」に従事するスペシャリストの育成と地域に根ざした人材育成の使命を担い，多くの卒業生を地域と社会に送り出してきました。

特に，起業家教育の一環として取り組んだ商品開発には目覚しいものがあります。地元特産の梅をモチーフに，平成２０年は梅飴「うめ輝らり」，平成２１年梅ゼリー「うめ果りり」，平成２３年「うめらむね」，そして，平成２４年に大ヒットとなった梅味のポテトチップス「大河原の梅味」，さらに平成２５年には「かむかむ青梅ソーダ味」，そして，平成２６年は宮城県の復興を支援するための企画に基づきまして，地元の食材にこだわった仙台空港のみで販売しております，「空弁」を地元企業と連携して開発に取り組み，地域ブランドへ発展させるために，現在も継続して取り組んおります。

部活動では，特にギター部が有名ですが，昭和５８年から全日本ギターコンクールにおいて，これまでに２０回最優秀賞を受賞するなど，その実力は「全国一」の評価をいただいております。地元大河原町をはじめ，地域の多くの皆様から期待と関心を寄せていただいております。

本校では，将来素晴らしい会社に就職したり，大学に進学したりできるように常に取り組んでおりますが，具体的には，「部活動」「教養」「資格取得」「規律」の４つを柱として教育活動を行っています。

「部活動」では体力や気力，そして人間関係も含めた社会性を養い，「教養」では基礎学力と知性，それに感性を高め，「資格取得」ではビジネスに関する専門知識や技能を，「規律」では進路指導や社会人として求められる生活習慣やマナーを育成する指導を実践しております。

これらの培った力一つひとつの集大成が，知識基盤社会を支える「働き続ける力」，生涯学習社会に繋がる「学び続ける力」として結実させるよう努力しております。これらの力を兼ね備えた大商生が地域や社会から信用と信頼を得て，どの進路においても活躍できる力，それを「大商ブランド」と名付けており，本校の教育活動を通して，生徒一人ひとりの夢の実現の手助けをしております。

そして，地域社会に貢献し，リードし続けることのできる，質の高い人材を育成することが，本校の使命であると考えております。

資料３ページです。「在籍状況」及び「在籍生徒の出身地域」につきましては，資料の通

りになります。

資料４ページ，「進学・就職状況」は，例年，進学が大学・短大・専門学校等をあわせて約４割，就職が約６割という状況になっております。昨年度の主な進学・就職先は資料の通りとなっております。おかげ様で進学合格率及び就職内定率は１００％を達成しています。

以上で説明を終わります。ありがとうございました。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。「大商ブランド」ということで今，御説明がありましたが，何か御質問，御意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

続きまして，地域の職業教育拠点校のあり方を検討していく上で，地域の産業状況等の把握も必要であると考えております。そのような意味から本日お集まりの皆様には十分に御存知のこととは思いますが，「南部地区の概要」について資料５に基づきまして，事務局より御説明申し上げます。

【教育企画室　吹谷班長（事務局）】

教育企画室の吹谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは南部地区の概要につきまして資料５とあわせて参考資料（資料５関係）の２つで説明をさせていただきます。

なお，参考資料につきましては，国勢調査，農業政策，経年政策などを参考にまとめたものでございます。

まず資料５の１の地勢等でございます。地域の西部は，蔵王連峰の裾野に広がる丘陵地帯，東部は，阿武隈川・白石川が流れる平野部，北東部は仙台都市圏に隣接しておりまして，住宅開発が進んでおります。

地域の面積につきましては，約 155,000ｈａで，県土の 21.3%を占めております。そのうち，森林の割合が大きく，69%が森林の割合となっております。

また，古くから交通の要衝となってございまして，現在でも各鉄道網や高速交通網が整備されております。

続きまして，２の人口関係を説明いたします。こちら別添参考資料 1 ページの表１広域別人口推移にあります通り，本県の人口はほぼ横ばいで推移しておりますが，仙台圏を除く各広域圏域の人口減が顕著となっております。

次に表２仙南広域圏の各自治体の人口推移を見てみますと仙南地域の市町は総じて減少傾向であるものの柴田町ではほぼ横ばい，大河原町では増加傾向にございます。

次に参考資料２ページ表３仙南広域圏の年齢別人口推移を見ますと，平成７年度と平成２２年度を比較しまして，１５歳未満の人口が大きく減少しているのに対しまして，６５歳以上の人口が増加しております。このことから少子高齢化が進んでいるということが窺

えます。

なお，年齢別の１５歳から６４歳まで人口につきまして，ここでは労働人口と生産年齢人口と位置付けまして，特に平成２２年時点の１５歳と６４歳まで人口の県全体に占める人口の 7.5%と宮城県全体に占める仙南広域圏の労働人口と一致しております。

それでは資料２ページ３の産業関係をお開きください。（１）の産業構造でございますが，参考資料の３ページの表５の圏域別域内総生産額を見ますと表の一番下の県全体に占める仙南圏域の総生産額割合にあります通り，第１次産業は 11.4%，第２次産業が 10%，先ほど表３で説明いたしました仙南圏域の労働人口割合の 7.5%を上回っております。このことから総じてこれら１次産業，２次産業が盛んな地域であるということが言えると思います。

それでは各産業につきまして，個別に説明いたします。まず（２）１次産業についてでございます。参考資料４ページの表８の１農業経営体数，表８の２農業就業人口にございます通り，いずれも県全体に占める仙南の割合が高いことから，こちらからも改めて仙南地域の農業が盛んであるということが窺えます。また，表９耕地面積状況で見ますと，田んぼに比べまして畑と果樹の占める割合が高くなっております。特に参考資料４ページの表１０にあります通り，野菜，花き，果樹こちらが盛んに生産されていることがわかります。

次に表１１林業経営体数を見ますと県全体に占める割合が 23.9%となっております。林業についても盛んな地域であると言えるかと思います。

また，表１２は畜産業の飼養戸数が記載されておりまして，こちらを見ても畜産業についても盛んな地域であると言えます。

最後に参考資料６ページ表１３の１と表１３の２こちらを見ますと，仙南地域における農産物直売所の設置数あるいは農業生産経営体数の数や割合が高くなっております。このことは単なる農業生産に留まらない，いわゆる農業経営の多角化ということがこの地域では，他の地域に比べると進んでいるということが示されていると思います。

以上１次産業のポイントといたしまして四角の枠で囲んでありますけれども，農林畜産業の全てが県内有数の産地であり，農業経営の多角化の先進地であるということでございます。

次に（３）２次産業について説明をさせていただきます。参考資料６ページ表１４仙南圏域における２次産業の従業員数にございます通り，製造業の全県シェアが 17.8%となっております。

また戻りまして参考資料の３ページ表７にございます通り，仙南圏域の労働者人口のうち 29%が製造業に従事しているということから，製造業こちらが地域の雇用の大きな部分となっていることが窺えます。また，表１４を見ますと食品製造の従業員数が 3,593 人となっておりまして，この製造業の中でも，食品製造業というのが最大の雇用となっていることが窺えます。

以上２次産業のポイントについてまとめますと，機械系製造業を中心に２次産業が集積

していること，また１次産業の強みを生かした食品製造業が盛んな地域であるということがわかってきます。

産業別の説明の最後に（４）３次産業について説明いたします。仙南地域の３次産業は，参考資料３ページにあります表５と表６を見ましても，１次産業，２次産業と比べますと３次産業の生産額，あるいは労働人口はやや低い地域であると考えられます。そのような状況にありますが，参考

資料６ページの表１５，こちらを見ますと観光業が盛んな地域であるということもございまして，宿泊業に従事する方の割合が 9.2%とやや高くなっております。

以上３次産業のポイントとしては，３次産業の労働人口シェアにつきましては，１次産業，２次産業と比べるとやや低いということが窺えますが，地域特性を生かした観光業に強みがあると言えるかと思います。

なお，最後に（５）の特産品といたしまして，地域の特産品をそれぞれ記載しております。あわせて，参考資料７ページ表１７にも各自治体ごとの特産品を記載しております。

以上で資料５の南部地区の概要につきまして，説明を終わらせていただきます。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

産業のポイントとして，農林畜産業の有数の産地であること，それから，製造業の第２次産業が集積していること，そして，観光業に強みがあるというような特色の説明がございました。

ただいまの説明に関しまして，何かご意見等ございますでしょうか。

少し資料の説明が早かったようなところもございますけれども，今後会議が続きますので，お気付きになられたときに，ご発言いただければと思います。

（２）意見交換

【鈴木次長（座長）】

それでは，ここからは意見交換に進みたいと思います。

只今の説明に関するご感想でも結構ですし，教育への率直な思いについて，皆様方お一人お一人から，忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。

時間ですが，少し早くなっておりますので，当初は，お一人３分程度ということではありましたが，３～４分ということでご意見をお願いしたいと思います。

それでは，座席順に参りたいと思います。まず，安藤同窓会長様から大変恐縮ですが，反時計回りでお一人ずつご意見をお聞きしたいと思います。

安藤同窓会長様よろしくお願いいたします。

【大河原商業高校同窓会　安藤征夫会長】
声が出ないため，お話申し上げたとおりでいいと思います。

【鈴木次長（座長）】
朝から高熱が出ていたということで，点滴を打って出席いただいたということで本当に申し訳ございません。ありがとうございます。
それでは，菅野会長様よろしくお願いいたします。

【柴田農林高校同窓会　菅野信会長】
同窓会長の菅野と申します。
私は，母校の柴田農林高校での教員が２４年間位，校長を含めると２６年間，よって柴田農林高校以外はよく分かりませんが，その辺から話していきたいと思います。
対極的にみれば，このようなグローバル化社会，あるいは産業構造の変化の時代において，本校も一時代の責任を果たしたのだと。果たしてなおかつ，それをベースにした新しい学科を，実を言うと模索していました。何かがあったら機会に出していこうと思っていました。第１次産業を中心とした地域社会の中堅の人間育成については，十分達成してきたので，創立１１０年に向けて，次のステップに入るにあたり，どうするかというところで，１月１２日に県知事が発表したところですので，私個人としては，同窓会としても，即刻後押し・応援して，頑張っていただこうかなというような心境でございます。
また，我が母校の農業教育のノウハウと大河原商業高校の商業計画のノウハウをコラボして，それから新しい産業ということで，時代としてはマッチングするのではないかと私は思っておりました。
このような形で，この新しい学校が今からの時代にリーダーシップをとっていただける学校にしていただければ，我が母校としても良いなと思っておりました。具体的なことはまだでませんが，心境としてはそういうところでございます。以上でございます。

【鈴木次長（座長）】
ありがとうございます。
農業の商業のノウハウのコラボというお話がございました。リーダーシップの発揮できる学校というお話もございました。
続きまして，相原 PTA 会長様よろしくお願いいたします。

【大河原商業高校ＰＴＡ連合会　相原正幸会長】
よろしくお願いします。このような会は今日初めてですけども，学校が統合するという１月のプレス報道で，今からそのようなことがあるのだという驚きの部分が少し隠せないと思っております。

私は，もともと村田町出身で，高校が名取市にある宮城農業高校に行っていたものですから，仙南地区の部分については疎いところがありまして，少子化というのは，私の地元の方でも４つの小学校が１つに統合して，今から抱えていく少子化の問題は深刻な問題だと認識しております。そのなかで，先程各学校の歴史の方を見させていただきましたが，元々は１つの学校で，それが分かれて，それがまた１つの学校になるという輪廻のような形だと感じております。率直に，意見といいましてもただビックリして，どのような形の流れで進んでいくのかという部分を見させていただいた上で，意見などを少しずつ述べさせていただきたいと思っておりますので，いろいろ勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございます。

続きまして，大野 PTA 会長様よろしくお願いいたします。

【柴田農林高校ＰＴＡ連合会　大野幸雄会長】

柴田農林高校の大野です。

先程からいろいろご説明などをお聞きしており，やはり，柴田農林高校には，どうしても残しておきたい学科があると思っています。大河原商業高校にも同じようなことが考えられると思います。

部活動も先程ご説明がありましたとおり，全国でも有名な部活動がありますので，今後，そういった部活動を無くしていかないよう検討していただければという考えでおります。以上で終わります。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

教育の特色と言いますか，部活動，学科等を残していただきたいものがあるいうようなご意見でございました。

それでは，佐々木校長先生よろしくお願いいたします。

【金ヶ瀬中学校　佐々木敦子校長】

金ヶ瀬中学校の佐々木と申します。よろしくお願いいたします。私からは，大きく２つお話しさせていただきたいと思います。

１つは，うちの学校の進路指導で使おうと思って，朝日新聞の１月２８日の記事をたまたま持っていたのですが，農業高校の全国的な生徒数は減ってきてはいるけれども，女子の割合は増えているのだそうです。また，女子の農業高校生を主役にしたアニメがあって，ピンクの軽トラや日差しが入らない農業機械など，いろいろな企画があり，時代を担うと

いうことで全国的にも新たな動きがあることが分かりました。この資料を使いながら生徒たちには，自分が将来どんな仕事に就きたいかとか，どんな人になりたいかとかを考えて高校を選んでいくことを伝えましたが，今回，新しい職業拠点高校となった場合，近未来とか将来の時代を担えるような，魅力的な学科だとか，カリキュラムの編成が期待されることだと思って，大きな期待を寄せています。農業と商業が母体となって一緒になるので，大変魅力的な，全国に先駆けるような学科，指導内容が出来るのだと思っているところです。

２つ目は，これに合わせて，現場の中学校とすれば，もし平成３４年開校であれば，今度の４月に５年生になる子どもが平成３４年で高校１年生になります。そうすると２年後には中学校１年生で受け入れることになりますから，新たな進路指導の方向性が出てきて，今までの進路指導だけで足りないものがあるので，中学校ではうかうかしてられないと思っています。

それから，柴田農林高校と大河原商業高校は合わせて９クラスあるかと思いますが，それが新しくなるとクラス（定員）は減ると思います。こちらの資料にありましたように，大河原地区だけでなく仙台圏からも受験者が多い状況ですので，仙台圏からいっぱいきて，大河原地区の子どもたちの行き場がない現状にならないかという危惧も現場の者としてはあります。その場合，県レベルで戦えるような実力をつけることが仕事ではありますが，そうでない子どもたちをどうしたら良いか。そうすると，例えば，近隣の蔵王高校や柴田高校，村田高校，角田高校，伊具高校に行くかもしれない，そうした場合，この辺は交通の便が悪く，バスが朝晩１本ずつしかない，あるいは，バス代がかかるというのが現状ですので，この際の行政側の援助といいますか，システムづくりといいますか，バスの本数を増やすとか何かそのようなもう一つの策も必要かなと思っているところです。今はまだ感想しか述べられませんが，新しい学校に期待しているところです。よろしくお願いします。終わります。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

魅力ある学校になればなるほど，仙台圏の生徒がこちらの方に来るのではというような予測も今出ました。

それでは，齋教育長様よろしくお願いいたします。

【大河原町教育委員会　齋教育長】

大河原町教育委員会の齋でございます。よろしくお願いします。

大河原町から高校が１つ減ってしまうと，これは大変なことだと危機感を覚えております。ただこのピンチを何とかチャンスにしていかなければならないということを考えておりますが，今，佐々木校長が申し上げましたように，新しい学科に期待するところでござ

います。しかし，新しい学科と言いましても，なかなか，少子化の時代での新しい学科は非常に難しいのではないかと思いますが，農業と商業を活かす中で，やはり少子化の時代，そして，高齢化の時代ということでは，福祉の学科というのはやはり欠かすことの出来ないのではないかと私は思っております。この学校を出たら，何か介護士の資格を取れるとかそういった事で，高齢化社会に対応できるような人間を育てることが出来ないか，そのところを一つ大きく考えているところでございます。

更に柴田農林高校と大河原商業高校が統合した場合，学級減になると同時に，行き場のない子どもたちが出てくる。もちろん優秀な子どもたちを育てなければならないのは分かっておりますが，学校が減ることによって，行き場のない子どもたちが出てくる。この子どもたちをどうにかしなければならない。そういった意味で，定時制の話題は今回出ないということですが，そちらとの連携を取りながら，この行き場のない子どもたちを救っていかなければならないと思います。同時に，後で町長の方から申し上げると思いますが，進学，いわゆる大学への道を切り開くコースも併せ持っていきたい。これは欲張りかもしれませんが，そのように幅広いコース設定をお願いできればと思っております。

もう１点は，学校だけで知的財産を占有して良いのかという事があります。つまり高等学校には，沢山の知的財産があります。これまでも知的財産がたくさんございまして，我々にも分け与えていただいたのですが，知的財産を地域で共有していただきたいという意味で，地域との交流を，さらにこれを機会に活発にしていただくことが出来ないか。

その１点目として学校間交流，これは現在も行っております。柴田農林高校の牛の世話を子どもたちにもさせていただいて，本当に感動的な作文を書いております。そういった意味では教育的な効果があると思っております。

２点目は，住民との交流でございます。コンピューターがあります。あるいは，動物がおります。そういったものを通して住民と交流する機会が出来ないか，そのことによって，子どもたちが卒業した時に，地域住民とさらに交流を深め，地域に密着した仕事ができるのではないか。

３点目は，防災の交流でございます。これまでも，いろいろございましたけれど，さらに新しい学校には防災機能も備えられると思いますので，それを是非地域にも分け与えていただきたい。そういったことを考えているところでございます。以上でございます。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

大学進学，福祉学科の新設，あるいは地域との交流といったご意見をいただきました。

それでは，伊勢町長様よろしくお願いいたします。

【大河原町　伊勢町長】

教育者がいっぱいいらっしゃって大変緊張しております。また，１０年程前の文教警察

委員会を思い出しておりますけれども，当時は，柴田農林高校川崎校の存続のために，環境学科や音楽学科をつくってもらいたいなどを言っておりましたけれども，今町長になりまして，いろいろ考えていることを申し上げたいと思います。

分かりやすく言うために，町長として役場職員のどういう人材を欲しいかということをお話すれば分かっていただけると思うのですけれども，昨日も農業再生化会議というものを本町で行いまして，それは，幅広く農業を考えていこうというものでありますが，目的は，６次産業化とかブランド化というものを考えておりまして，そういった分野における深い知識を持っている人がほしいなと，こういった知識があれば産業界でも当然活かせるということで，魅力ある学校をつくってもらいたいというのも第一ではありますけども，その観点から１つ申し上げたいのが，“ブランド学科”のようなものをつくってくれないかと思っています。少し話がそれますけれど，ドイツへ行きますと農村風景設計士と言う資格があります。農業から農業土木，気象学，園芸，あらゆる知識を身につけるような資格がりますけれども，そういったことを幅広く勉強する学校があれば，農村風景設計士になるためではなく，高校時代にいろいろなことに関心を持って，人によってはもっと専門知識を身につけたいということで大学に行くかも分からないし，実業界で活躍したいという人もいると思います。

実は昨日，議会が終わったばかりですが，一般質問の中で，特に私がお願いしたいのが，デュアルシステムをしっかりして，地域の企業と連携する度合いをもっともっと深めていただいて，例えば製造業でありますけど，製造業の中に技術開発や商品企画，あるいはマーケティングであるとか，そういったいろいろな知識を身に付ける必要があると思いますが，幅広く勉強するといった学科，柴田農林高校や大河原商業高校も，かなり学科が細かく分かれているような気がしますけれど，全体規模が縮小する中で果たしてそれができるのかというのは難しいと思いますので，総合学科的な形にしてその中でいろいろな資格を勉強する中で，デュアルシステムを１つは中心として，もう１つは大学進学も目指せるような学校をつくっていただきたいです。これは，都立高校では１０年以上前からやっていると聞いており，実業高校プラス普通科あるいは，進学校を併せ持った学校をつくっておりますので，そういったことを是非参考にしていただきながら，特にこの地域の企業，個別企業が求めるような人材を育成するようにすれば，今話題になっております地方創生で，田舎から東京へ行かず，地域に密着した人材を育成すれば，その地域の企業で専門知識を持ちながらやっていただけるといったような，できる限り高度な知識を身に付けながら地域の具体的なニーズにあったような事をやるためには，ある程度，総合学科的なものにして，幅広くいろいろな資格をとる勉強するような学校をつくっていただきたいです。

学科としては，今言った“ブランド学科”と言いましたけれども，これは１次産業だけではなく，観光も関連しますし，そう言った意味で仙南地域のブランド力を上げるためにもいろいろなことを勉強していただければ，ブランド政策を進めるのは大河原町役場が欲しいのですけれども，そうではなく，そういったことを勉強すればいろいろなことに応用

が効くという事で，そういった事を考えながら，学科を編成していただければありがたいなと思っているところでございます。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

地元企業と連携した幅広い学びのできる“ブランド学科”というような，資格も取れて進学もでき，企業への就職もできるというような総合的な学びができる学科の設置を求めますというご意見でございました。ありがとうございました。

それでは，菊池校長先生，よろしくお願いいたします。

【大河原中学校　菊池均校長】

地元大河原中学校校長の菊池です。

昨日，後期選抜の入試の合格発表がございまして，大河原商業高校の合格者が過去５年の中で，最も多くなりました。実に，合計３２名の合格者，柴田農林高校も２０名の合格者を出させていただいたということで，地元の高校に対して，たくさんの合格者が出たのかなと思っています。その理由は，今“ブランド”というお話をいただいていますが，“大商ブランド”について，非常に本校の生徒が高い関心を持っておりまして，大河原商業高校に行ってそういった勉強をしてみたいという志を持つ生徒が確実に増えています。

私は中学校の立場ですが，地元でありますので，地元の中学校（義務教育）と高等学校との連携や情報交換，交流を新しい学校ができることを見通して，今後ますます深めていただければと思います。

本校でも，大河原商業高校と柴田農林高校の先生方に，年に何度か来ていただき，授業への参加や子どもたちにアドバイスをいただいております。本校では“立志”という志を立てて，将来を見通して，夢と志を強く打ち出しているところですが，今後，新しい学校ができるにあたって，さらに地元中学校と連携を深めながらやっていければなというふうに期待しているところです。

新しい学校の中身につきましては，伊勢町長や齋教育長がご希望いただいていますとおり，私もまさに同感でありまして，せっかく新しい学校をつくっていただくので，単に商業と農業のコラボだけで終わるのではなくて，より魅力的な，そして２０年後，５０年後の新しい時代にも対応できるようなそういう学科をつくっていただければなと思っています。

農業人口，就農人口は今，確実に増えております。国でもそういった政策を打ち出しておりますので，仙南の方でも，高校を出てすぐに就農というのはあまり無いようですけれども，将来就農を見通して頑張っている若者がたくさんいると思います。農業技術だけではなくやはり，アグリテクノやバイオなど，農業の新しいスキルを例えば大学と連携するとか，地域のＪＡと連携するとか，新学科の創設に当たってご検討いただければ大変あり

がたいと思っているところでございます。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

地元中学校との連携や，アグリテクノなどといったような新しい学科をお願いしたいということでございました。

それでは，佐藤校長先生よろしくお願いいたします。

【大河原地区校長会　佐藤純子校長（角田中学校校長）】

角田中学校の佐藤と申します。

この大河原地区校長会の会長をさせていただいておりますので，大河原地区の現状を申し上げたいと思います。現在中学校２３校ございます。その２３校の内，大河原中学校の生徒数が６５０名と大変多い現状ですけれども，そうかといえば，全校生徒が１５名というような中学校もございます。私たちが考えるに，適正な学校・学級数はどれくらいなのかを考えてみると，やはり，１学年に２～３学級ずつあって，互いに切磋琢磨しながら部活動も成立するような学校規模かなと，そうすると３年を見越して，１０学級以上ある学校かなと思いますと，では，２３校の内何校かと言われますと，３分の１くらいしかそういう学校はないわけですね。校長先生たちと，常に研修をしておりますが，学ぶ環境を考えたときに，集団で学ぶとか，集団で育つということが，非常に大切な年代なので，子どもたちが故郷に一番近い高校に入りたいと言っても，その高校も小さかったりすると無下に断れなくて，もし，もっと大きな学校で，集団で育つ体験をさせたいと思うと，その進路指導もやぶさかではないと聞くことが中学校の会議ではございます。受験を前に，生徒と進学のための面談をすると，子どもたちはこのように申します。「どうしてこの高校に入ろうと思いましたか？」と聞くと，「まだ夢が決まっていないので，とりあえず大学に行こうかと思いその学校を選びました」という生徒がおります。その反面，志教育や職業観がしっかり自分の中に入っていて，「この学校を選んだのは資格取得できるからです」や「自分でなりたいと思う職業をきちんと学校教育の中に位置づけているからです」と回答してくる生徒もおります。そうすると，今回２つの高校の構想をお伺いしたときに，もし，農業や商業，工業，観光業などに，非常に志を高めたいと思っている生徒は，一番先にこの学校を選ぶのではないかなというような思いで，両校のそれぞれの同窓会等々には，様々な複雑な想いがあったとしても，この学校が南部地区に出来上がったときには，集団で学びたいと思う生徒たちの多くの夢を叶えられるのではないかと期待をしていることが１点です。

最後にもう１点はお願いです。高校という形を大きく広げて考えて，全国にもこんな高校をつくりましたよというような高校をつくっていただきたいと思っています。そのためには，生徒が３年間学び，卒業して完結するのではなく，先程からも“地域に根ざした”

や“知的財産の共有”とか出ておりますので，もしかして卒業した大人が“学び直し”をしたいと思ったときに，単位取得だけできるような，学びの再開や，自分が今農業に従事しているが，もう少し専門性を高校に入って学びたいという人が地域にいれば，その方々の学びの場にするような，大学でいうと“単位取得制”のようなことを窓口とした高校ができあがりましたというふうになれば，世代を超えた生徒たちが一緒に学んだりして，全国にも発信できるような高校になるのではないかと提案をして終わりたいと思います。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

集団の中で切磋琢磨ができ，そして夢が叶えられる学校ということでございました。

もう一つ，学び直しのできる社会人の受入れができるような高校というようなご意見でございました。

それでは，次に藤原会長様よろしくお願いいたします。

【柴田郡父母教師会連合会　藤原義信会長】

柴田郡父母教師会連合会会長の藤原と申します。

３～４分お話くださいとのことでしたが，引き出しが少ないので，自己紹介をしながら，学校と今の仕事をしている流れを聞いてください。

私は，柴田農林高校川崎分校の卒業です。今は，“川崎校”という名前になっていますが，私の弟から名前が変わり，存続の危機に遭われ，毎回，川崎町内では騒いでいるような状況です。今回，残るような形になりましたが，先程，齋教育長からもお話があったように，行き場の失った子どもがなくらならいような学校を残すような，地域にも必ずそういう学校を残してもらいたいという気持ちもあります。大河原管内で２校から１校になる状況からいきますと，生徒数が減ってきて，過疎している川崎町から高校が無くなっていくのは恐いなという感じを持っています。

私は，柴田農林高校川崎分校を卒業して，今は，村田町の工業団地に勤めていますが，私の会社では，半導体を製造する過程で使う装置の機械部品を製造しております。私の会社にも新入社員が入ってきますが，だいたい工業高校や白石工業の生徒さんが入社してきますが，工業高校に入った理由を聞くと，「家が近かったから」というレベルのような環境になっています。学校に何が魅力的なところがあるのかということを，きちんと皆が分かった上で通学して，それを活かせるような課程がないと，時間の無駄というか，それであれば中学校を卒業して技術を身に付けてもらった方が良いような環境なところがあります。

今日は第１回ということですが，もう少し詰めて，皆さんと良い結果が持てるような状況に持っていきたいと思っております。

【鈴木次長（座長）】

次の回あたりで，具体的なご意見をいただけると思いますが，今回の統廃合に関わりまして，子どもたちの行き場がなくならないような措置をしていただきたいというご意見でございました。

次に本木副会長様，よろしくお願いいたします。

【大河原町商工会　本木拓也副会長】

大河原商工会の本木でございます。

私どもの商工会の立場を踏まえながらお話させていただきたいなと思っております。

今日の資料の中で，南部地区に関しては，第３次産業の割合がやや低いという数字が出ておりまして，十数年前から商工会も“農業部会”“工業部会”“サービス部会”が新しく発足しまして，今や“サービス部会”もそれなりの会員の方がいらっしゃるという中でやっておりますが，今日の資料の数字だけを見ると，まだまだなのだなというのが実感でございました。

高校の統合に関してですが，非常に楽しみだなと思っております。

私の仕事としては，大まかに言うと２つの仕事をしておりまして，１つは携帯電話を販売するドコモショップをやっております。もう１つは，地域の環境を良くするために，ごみ処理業等も併せてやっておりますけれども，今日の大河原商業高校のお話の中において，“大商ブランド”ということで，梅の加工品のお話が出ました。ニュースや新聞等でもしょっちゅう見させていただいておりましたが，非常に良いお話を聞かせていただきました。

私たちは，今後 IT 関係にやや力を入れる方向でやっておりますが，今後の農業のあり方として，農作物のできるまでのメカニズムということがだいぶ回復されているということで，それをどういう形で管理していったらいいのかというと，今までの勘であるとか昔からの慣わしであるとか，それらももちろん大事ではありますが，ある程度は，コンピューターと連携しながらつくっていくということが今後の農業のあり方かなと考えておりました。

大河原商業高校の方には，私が高校に入る１～２年前から情報処理科ができておりまして，今回の統合によって，何か興味を持って，やれることが出てくるのではないかなということで大変期待をしているところでございます。

第３次産業の割合が低いということの理由はどこにあるのかなということを考えていたのですけれども，仙南地域については，つくって加工までするというところまでは，結構得意なのではないかなということ，その反面，仕事で消費する量が少ないということが第３次産業のやや伸び悩んでいるところだというふうに私なりに解釈させていただきました。

ついては，第６次産業という形になってくると思いますが，生産した方が，自ら加工して，この地域にたくさんの方をお呼びして，そして消費していただくという姿が理想だと考えておりますので，それに向けて，私たち商工会としても何らかのお役に立てるように，

これからも努力していきたいと思っております。
　今後，非常に楽しみだというお話をさていただいて，終わりにさせていただきたいと思います。

【鈴木次長（座長）】
　ありがとうございました。
　IT を活用した教育活動や６次産業化に向けた取組などのご意見をいただきました。
　それでは，佐藤副参事お願いいたします。

【宮城県大河原教育事務所　佐藤修一副参事】
　大河原教育事務所の佐藤と申します。
　所長が所用のため，代理で出席させていただいております。よろしくお願いいたします。
　本日のあり方検討会議を開催されまして，ありがたいと思っています。今回，県で初めての会議ということで，両校関係の方々からいろんな意見を聞いて進めていけるということは非常に素晴らしいと思います。
　新しい高校のあり方ということで，農業高校と商業高校のコラボとかいろいろな意見が出されまして，私が話したいようなことは既に全て出ているところではありますが，まずもって，高校の主体である生徒が元気であることが一番大事であると思います。活気のある高校にしていただきたいと思います。それがどのような学校かと言いますと，今，県でも６次産業化などが話されておりますが，自分たちでつくって，あるいは加工して，それを売るということを子どもたちが自ら考えながら進めていくような，総合学科のような高校も面白いのではないのかと思います。そして，それらを販売までも準備して手がける，そうすることによって，地域の方もそれを目当てに来たい，そうすると自然に地域の方も高校に寄って来る，地域の中の高校，地域の中の学校ということができるのではないかと考えます。今，現在の職業の６５％くらいは将来（３０年後くらい）無くなるという話もされております。そうしたときに，何が必要かというと，自分たちでつくったり，加工したり，売ったり，あるいは宣伝したり，呼び込んだり，そういったいろいろな活動をすることによって，学び方を学ぶといったような，本当の意味での生きていく上での力をつけられるような，そういった子どもを育てられるような，学校ができれば一番良いのかなと思います。当然，そのために学びたいという生徒もでてくると思います。そういった意味からすると，進学も可能で，あるいは，就職も可能で，現在の柴田農林高校や大河原商業高校でも進学・就職率が１００％だと素晴らしいと思いますが，それもさらに進学・就職の幅を広げられるような高校にしていけたらいいかなと思います。

【鈴木次長（座長）】
　ありがとうございました。

様々な活動ができるような高校にしてほしいということでございました。
それでは，現在の校長先生方にお聞きします。
後藤校長先生よろしくお願いいたします。

【柴田農林高校　後藤武徳校長】

柴田農林高校の後藤です。

私は，４月に柴田農林高校に赴任したのですが，この地域の特徴や歴史を柴田農林高等学校の１００周年記念誌から学びました。柴田農林高校がどのようにして１０７年の歴史を積み重ねてきたのか，農業後継者の育成はもちろんですが，他の農業高校にない特徴の一つに農業に関連する公務員を多く輩出していることが挙げられます。昭和３０年代には，高校からの公務員就職率で全国１位になっています。

また，私が教員になった昭和６０年代には，柴田農林高校と言えば，農業クラブの全国大会の意見発表で３年連続全国最優秀賞，学習成果を発表するプロジェクト発表大会でも全国最優秀賞を獲得し，技術競技でも測量競技では敵なしでした。その当時の柴田農林高校の題材というのは，“蔵王”を中心にした酪農業や大規模な施設園芸に関する発表が多かったように記憶しています。現在，当時と比較して，農業情勢が大きく変化していることはもちろんですが，先程お話があったように，公共交通機関がその当時とだいぶ変わってしまい，蔵王町周辺の酪農家の生徒がなかなか本校に通学できないなど，本校に期待されているニーズが大きく変化したのではないかと考えられます。そのことが，くくり募集や学科改編に繋がったといえます。

今度できる新しい学校が，仙南地区の職業の拠点校を目指すというようなことで，どういうものが一体職業の拠点なのだろうかと考えると，テレビあるいはラジオで“職業”という言葉が出ると，すごく反応してしまいます。この前，インターネットを見ていたら，「現在小学校１年生が将来就きたい職業は？」と問われる職業の９割は，彼らが成人になるときにはないだろうと言われている。つまり，ロボットやITなどに全て取って代わられるような要素，そういう中で，職業の拠点というのは何を目指すのだろうというと，やはり人材育成なのかなという気がします。

基礎学力の向上もそうですが，やはり実際にインターシップであるとか，デュアルシステム，あるいは実験実習であるとか，そういうものを体験することによって自分の中に出てきた知識欲というのを，いろんな方面に発展させていったり，あるいは，連携したりするのが，この地域にとっての人材育成なのかなと今の段階では思っております。先程もお話しましたように，両校ともほぼ１００年の歴史を有する学校ですので，不易と流行という言葉がありますが，今まで１００年間もってきた学校にはそれなりの理由があるわけで，それをきちんと踏まえながら，より何を目指すのかということをいろんなご意見を伺いながら模索していきたいと思いますので，よろしくお願いしたいと思います。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

それでは，佐藤校長先生お願いいたします。

【大河原商業高校　佐藤充幸校長】

大河原商業高校の佐藤です。

まず，専門教育と言われておりますが，専門教育に一番欠けているというか弱いところは，一言で言えば，本物の教育だろうと思います。分かりやすく言えば，今，体験活動と称して，販売体験とか，インターンシップとか行われておりますが，いずれも年に１～２回とか，３～４日間とか，そういう形で終わっている。それでは，生徒たちは，本当に専門教育の良さを理解できないのではないかなと思います。特に商業の場合は，資格取得にも力を入れておりますが，体験活動が不足する部分といいますか，代わりになる部分ということもあって，資格取得を奨励しているわけです。特に，大河原商業高校では，昔から先進的な取組をしている学校でして，先程，情報処理科の話が出ましたが，昭和４６年に東北で初めて情報処理科を設置した学校であります。ですから，東北六県の中で情報処理教育の先進校でした。その他に，訪問販売実習室，マーケティング実習室といって，いわゆるお店のような形，店舗のような実習室も１教室分あります。他の商業高校にはなく，大河原商業高校だけにあります。ですから，かなり先進的な取組をしている学校です。やはり本気になって専門教育，特に商業教育をしなければいけないということでやってきておりますし，私も昨年４月にこちらに着任しましたが，だいぶ前も教員として勤務したことがありますが，とにかく，もう一段ギアを入れ直して，もっと本気になって，実績を上げなければだめだと，６年後統合になるといって，いわゆる体力が弱まった状態で統合するのでは意味がなく，体力を強めて統合しようではないか，そのためには，とにかく職業資格，高度な資格を目指そうということで，全国商業高校協会の検定試験があり，その１級もかなり難しいですが，さらに日本商工会議所の検定試験も挑戦していこうということで，この１年，あらゆる検定試験で，近年にない合格率を上げています。他の商業高校には引けを取らない，県内でも１・２位の合格実績を上げています。

先程，菊池校長先生がおっしゃったように，流通マネジメント科とか，情報システム科とか，OA 会計科とか，こういう専門学科があるのは本校くらいです。こういう専門学科を持って，その検定試験でも，合格率を上げているのは本校くらいです。統合になってもこの流れは絶対無くしてはいけないと，教職員も我々も本気になって資格取得には力を入れたいと，今までもやってきたので，これからもやっていきたい。生徒たちもそう言っています。昨日も合格発表がありましたが，在校生もいましたので，「君も去年はこういうふうに泣いたりしたのか？」と聞くと，「泣きました。受かって泣いた。」と，前期選抜で落ちて後期選抜で受かった生徒でしたが，「どうしてそこまでして入ろうとしたのか？」と聞くと，「ここの高校では資格が取れます」。「それどうするんだ？」と聞くと，「資格を取って

銀行とかいろいろな有名企業に事務職で入りたい」と，はっきり言います。そういう生徒はかなり伸びます。ですから，職業教育と言うと幅は広いですが，本校に関して言えば，そういうところを目指したいと思っています。

そして，柴田農林高校との統合を考えれば，やはり両方に共通する部分は何かというと，農産物を専門につくって売る力，先程も出ましたが，販売する力です。そのために必要なものはデザインです。工業製品もそうですが，農業製品でも何でも，マーケティングでいくとデザイン力ですね，これは，昔も今もこれからも変わらないです。自動車関連会社も車のデザインを考えるのにどれだけ多くのデザインの専門家を雇っているのか，ですからデザイン力なのです。それから，販売力・マーケティング，市場調査，これを徹底してやらないと，売れません。それでも売れないことがありますけれども。新しくできる学校では，やはり商業にも農業にも両方に関係するのは，先程６次産業の話が出ましたが，６次産業でも必要なのは，そういうマーケティング力とかデザイン力です。ですから，何かデザインを学ぶ学科が必要ではないか。そうすれば，第２次産業の製造業のメーカーが仙南地域には多く，働いている人も多いですから，そういうメーカーへ就職するにもいいと思います。それから農業に携わる人たちにもいいと思います。生産物を裸で丸ごと販売する生産者はいませんので，必ず，どういうパッケージにして販売しているかということが大事ですよね。デザインを勉強する学科が必要ではないかと思います。

それから，やはり IT 化がどんどん進みますので，IT に関する勉強をもっとさせるような内容に変えていかなければならないと，例えば，先程販売力の話が出ましたが，今は店舗販売だけではなくて，いわゆるインターネットビジネスの時代です。ネットビジネスの専門家を育成するようなことも考えていかないとダメだと思います。

それから先程も言いましたが，WEB デザイナー，要するに，いろいろなお客様に見てもらえるようなホームページをきちっとつくってもらえるようなデザイナーも必要だろう。

また，先程，観光とかいろいろな話が出ましたが，企業への就職でも，中小企業でも今は，東南アジアなどの外国に進出するのは普通ですので，この前も秋田のある専門高校の校長先生が「秋田では語学に力を入れている」と言っておりましたが，私も同感です。語学にどんどん力を入れていかないと，これからのビジネス教育では立ち行かなくなるだろう。

実は，今言ったようなことは，全て，進学にも活きると思います。IT や語学力がないと，進学もできません。できないというか進学にかなり有利です。ですから，今私は学校で，英検を奨励しています。来年は県内の商業高校の中でトップになる予定でおります。そういうふうに今英語の教員にも伝えております。語学を強力に推し進めると言っています。

後は，大河原地区校長会会長の佐藤校長先生もおっしゃっていましたが，社会人の学び直しができるような学校のような，それは“専攻科”が考えられるのではないかと私は思います。要するに，高校の上にさらに１～２年間なりの勉強するコースとして，専攻科というものがありますので，それは高校３年間の勉強の上にたっての話にはなりますが，も

っと勉強したいとなったならば，高校生でもそういう学科に進ませたっていいのではないかと思います。

いろいろ述べましたが，小学生・中学生がどういう生活をして，どんなことに普段興味を持って過ごしているのかをきちっと捉えながら新しい学校や学科をつくらないといけないと思います。今の生徒たちは一生懸命になってゲームをやりますので，そういうゲームのアプリを開発する技術者なり，そういう仕事に就きたいというのは実は多いです。そういうことを勉強させる学科なり学習内容にしていかないとダメだと思います。

余談になりますが，地域の産業の担い手とは言っても，TPP といった外国の農産物など激しい競争に農業従事者がさらされて，「どうしたらいいのか分からない，お父さん・お母さん，農業で食べていけないから，近くの工場で働く，役所で働く」という時代に，子どもたちに「さあ，お前は地域の担い手になって，農業や林業で食べていくようにするんだぞ」と言っても小・中学生たちは，「そうする」なんてことにはならないと思う。少し遠回りになっても，夢のある仕事に向けた勉強をさせて，そういう知識を持ってから，あるいは企業で働いてから，ノウハウ・技術を身に付けてから，例えば自分で農業ビジネスをやるとか，いろいろなビジネスをやってもいいのではないかと思います。

そういうふうに考えています。以上です。

【鈴木次長（座長）】

ありがとうございました。

デザインとかIT，それから英語などが出ました。

両校の校長先生とも強い体力のある状況で平成３４年度の統合を迎えたい。ということでございますので，資格取得など非常に頑張っておられることをお話いただきました。

以上で，一通り，ご出席いただいた皆様からご意見をいただいたのですが，何か言い残し，補足等ございましたら，では，町長さんお願いします。

【大河原町　伊勢敏町長】

町議会の一般質問で答えて約束したことがございまして，統合に伴い，今の柴田農林高校の敷地に通う生徒数が若干増えるわけですが，通学路の安全確保をしっかりしてくれということで，特に今指定している通学路は，おそらく歩道橋を渡ってから大河原駅に向かうルートでしょうけれども，実際に生徒を見ていますと，大河原橋を渡ってから大河原駅に向かうルートの方が短距離なわけですから，あっちの安全を確保してそれを通学路にするとか，いろんなことを考えてもらいたいなということでありますけれど，それを検討していただくように議会の代弁としてお願いしたいと思います。

【鈴木次長（座長）】

はい，ありがとうございました。

今，大河原橋の拡幅工事が進んでいるところで，あの辺は，柴田農林高校に通う生徒たちが通っていると思うのですけれども，あれは安全でありがたいですね。

はい，他にございませんか。

【髙橋教育長】

今，町長さんから通学路の話がありましたが，最初の方にご説明申し上げましたが，敷地は柴田農林高校の敷地を使うということで考えております。

どこに建てるかは今後またご相談しながら，今いる生徒たちができるだけ不自由にならないような形で工夫をしたいと考えています。通学路についても，これまたご相談をさせていただいて，安全に通学環境が確保できるように努力して参りたいと思います。

そういったことも含めて，いろいろご要望・ご意見あれば，この場でどんどん出していただければと思いますので，よろしくお願いいたします。

【鈴木次長（座長）】

その他にございませんでしょうか。

では，５月に第２回目の会議を予定しておりますので，今日は皆様のご意見を聞いてから自分の考えをこれから述べたいという皆様もいらっしゃいましたので，その折にお聞きしたいと思います。

今日いただいたご意見につきましては，両校と事務局の方で検討しまして，５月の第２回目の会議でご報告させていただきたいと思います。

その他，何かございませんでしょうか。

なければ，第１回目の会議を終了させていただいてよろしいでしょうか。

議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。

では，進行の方を事務局にお返ししたいと思います。

５　閉会

【教育企画室　小谷野総括（司会）】

本日は短い時間の中で様々なご意見をいただきまして，ありがとうございました。

いただいたご意見につきましては，整理をさせていただきまして，第２回目の検討会議の開催させていただきたいと考えております。また，第２回目の会議につきましては，５月頃を予定しておりますので，日程等を調整の上，改めて御連絡を差し上げたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。なお，本日，お時間の都合で，お話できなかったことが後々あれば，事務局の方にお寄せいただければ幸いでございます。

それでは，以上をもちまして「第１回大河原地域における高校のあり方検討会議」を終了いたします。本日は，ありがとうございました。